

平成 29 年度 第 2 回二宮町総合戦略評価委員会 議事要旨

開催日時	平成 29 年 11 月 10 日（金） 9:30～11:45		
開催場所	二宮町町民センター 3 階 3 B クラブ室		
出席者	委員	出席 7 名 花上 美智子 委員、平田 光枝 委員、古澤 有三 委員、 後藤 伸 委員、脇 治 委員、樋口 徹雄 委員、神保 智子 委員 欠席 1 名	
	町	政策担当参事	
	事務局	政策総務部企画政策課 3 名	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	1 人
会議次第	1. 開 会 2. 議 題 (1) 二宮町総合戦略政策評価に対する意見等について (2) 二宮町総合戦略政策評価に係る意見書（案）について (3) その他 3. 閉 会		
配布資料	資 料 1 二宮町総合戦略政策評価に対する意見等 資 料 2 二宮町総合戦略政策評価に係る意見書（案） 参考資料 1 平成 29 年度 第 1 回二宮町総合戦略評価委員会 議事要旨 参考資料 2 平成 28 年度 二宮町総合戦略評価について（意見）		

【議事要旨】

(1) 二宮町総合戦略政策評価に対する意見等について

① 安心なくらしを守り、住み続けられる地域をつくる

<修正点>

行数	修正前	修正内容
5行目	持続可能な地域社会を実現するためには、行政からの…	「…ためには、」の後に、「地域包括ケアシステムの構築に象徴されるような」を追加。 ※1
9行目	…ともに考え、行動する姿勢を示す必要がある。	「ともに考え、行動することで、」に加えて、「活動の成果を実感できるような仕組み」という内容を追加。
12行目	…設定が行われることが重要である。	「設定が行われることが望ましい」に変更した上で、「より望ましい方向に向けて努力してほしい」という内容を追加。
13行目	こうした取り組みを施策の枠を超えて、部局横断的に推進することにより、	意見からは削除した上で、会長意見に追加（全基本目標共通）。

※1：基本目標2の（主な意見交換等）を参照

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

○ 二宮町は協働なくしてはやっていけないことは承知しており、その上で皆さん活動されている。そこで、「活動の実感を持てるような取り組みを大切にしながら進めていく」と入れてはいかがか。実感したことを力に変えて、さらに次の活動に繋げていくことができると思う。

◎ 3段落目の下に続けることで、いかがか。

○ 活動というより、活動の成果ではないか。また、「ともに考え、行動する姿勢」とあるが、これからの時代、姿勢だけではなく、仕組みや体制が必要なのではないか。

● イメージとしては、仕組みを構築するということによろしいか。

(異議なし)

○ いずれの基本目標も、意見の最後の2行が、「こうした取り組みを施策の枠を超えて、部局横断的に推進することにより」と同じ文章になっている。「部局横断的に」という意味は理解できるが、専門用語すぎるのではないか。

○ 同じ文章を毎回書くのは非効率である。会長意見に入れてはいかがか。

● 各基本目標に対する意見は、全て同じ構成にしている。締めくくりの言葉として、同じ文言を入れているが、必要ないということであれば、削除した上で、会長意見に入れることでいかがか。

○ それでいいと思う。

◎ 締めくくりの言葉の最後は基本目標で異なっているので、意見の締めくくりとして活かしたい。その上で、「こうした取り組みを施策の枠を超えて、部局横断的に推進する」という言葉は、会長意見にまとめるということではいかがか。

(異議なし)

○ 町民活動推進条例の精神が職員に徹底されていないことが散見されるので、同条例の精神の徹底についても記載してはいかがか。たとえば、情報公開請求一つとっても、情報公開の担当課と事業担当課では認識が大きく違うことがある。

● 町民活動推進条例については、前回の委員会でも議論をしていないので、意見の中に入れることは違和感がある。しかし、ご指摘のとおり、個々の職員の意識を高めることは大切である。

○ KPI の値自体は直接評価を決定づけるものではないが、進捗に合わせてフレキシブルに変えることが必要である。とすれば、4段落目の「重要である」という表現は、曖昧なのではないか。「べきである」とか。

◎ 「べきである」は強すぎるのではないか。

● 目標値は31年度に達成することを目指しているものであり、その間の年度の数値は目標値ではなく、目安でしかなく、その目安値を変えるつもりはない。意見のこの部分は、目標値の見直しを意味しているのではなく、目標値の設定には根拠を持つことが重要であるということを行っている。根拠が明確にならないのであれば、目標値を見直すべきであるということが、前回の委員会の意見ではなかったか。

◎ 表現はどうか。「設定が行われるべきである」ということでよろしいか。それであれば、目標値を見直せと言っているわけではない。

● 前回の委員会のご発言は、「目標値をきちんとしたものにせよ」だったのか。そうではなく、「目標値に満足することなく、前倒しして推進せよ」ということだったのか。

◎ 後者である。「行うことが望ましい」とすれば、目標値に根拠はないかもしれないが、取り組みを積極的に進めてほしいということにはなる。同時に、「より望ましい方向に向けて努力してほしい」ということでいかがか。前回の委員会では、目標値が根拠に基づかなければならないという話は議論の主流ではなかった。

● それでは、その2つを組み合わせるということでよろしいか。

(異議なし)

- ◎ 評価については「2」でよろしいか。
(異議なし)

② 二宮の強みを活かした魅力ある暮らしを提案し、新しい人の流れをつくる
<修正点>

行数	修正前	修正内容
2行目	…目標達成に向けた進捗状況は順調ではあるが、数値目標…考える。	「順調ではあるが、」の後に、2段落目を挿入。「数値目標…考える。」は3段落目の後ろに移動。併せて、「転出超過となった要因を分析した上で」を追加。
8行目	…移住者をはじめとする個人の情報発信と…	「移住者をはじめとする」を削除。「個人」の前に「町の魅力を伝える」、後に「や団体」を追加。

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 「転出超過を大幅に改善できた要因を分析すべき」を織り込んでほしい。
- 数字だけを見れば、とても高い評価ができる。しかし、数字だけでは評価しづらい。
- 実際には、さまざまな要因が絡んでいる。
- どこに数値が改善した要因があるのか、分析することは非常に重要だ。それを分析した上で、今後の町の施策に活かせば、継続的に社会移動数を抑制することができる。
- ◎ 全体として、文章の流れがあまり良くない。2行目の数値目標に関する意見は、最後のほうがスムーズに頭に入ってくる感じがする。いかがか。
- 事務局案では、1段落目に評価について述べており、すべての基本目標に対する意見が同じ構成となっているが、今のご発言からすると、1段落目で「評価1」について、最後に「評価3」について意見するということか。それでよろしければ、構成を変更する。併せて、社会移動数が改善した要因分析の件も後ろに移動する。
- 目標値を超えているKPIは見直すべきではないか。目安とはいえ、評価の道具の一つとしている以上、KPIを置いておくこと自体、意味がないのではないか。
- KPIの見直しについては、ここで議論すべき話ではないが、意見としていただくことはできる。見直しの可否については、意見を参酌した上で、町で判断することである。

- 4月から「通いの場」が始まったが、地域の人を皆で支えていこうというこも、高齢化率の高いこの町の魅力、強みの一つと捉えることはできないか。
 - 地域包括ケアシステムについては、施策としては、基本目標1である。今のご発言を反映するとすれば、基本目標1の2段落目の「…持続可能な地域社会を実現するためには、」の後に「地域包括ケアシステムの構築に象徴されるような」と入れることでいかがか。
 - 施策としては基本目標1であると思う。しかし、ここで言う二宮町の強みは「人」とであるとすれば、「人」という強みをどのように活かしていくか、どのように発信していくか、ということがよく分からない。「にのみやLife」PRホームページでも、言葉や動画として発信されているが、もっと、人の魅力を発信し、人を惹きつけられるといい。
 - 「人」については、3段落目の「移住者をはじめとする個人の情報発信と…」で触れているが、もっと具体的に入れたほうがいいということか。
 - 情報発信は、個人だけでなく、町内で活動している団体も行っており、そこも町の魅力の一つである。
 - それでは、「移住者をはじめとする個人や団体の情報発信と…」と修正することでよろしいか。
 - ◎ あるいは、移住者をはじめとする繋がりを求める個人、団体とするか。
 - ここで言っている「移住者」というのは、移住者を含め、町のPR活動をしていただいている、「にのみやLOVERS～まちの魅力伝え隊～」を指している。
移住者をはじめとした個人と行政が連携し、町の魅力を発信している。これから新たに移住者と連携するという意味ではない。
 - ◎ 団体という言葉を追加するだけでは、「人」が重要という点からすると弱い。「移住者をはじめとする」は削除した上で、「まちの魅力を伝える個人や団体の…」としてはいかがか。
 - 文章の繋がりを含めて、事務局で修正する。
 - ◎ 評価は「1」と「3」でよろしいか。
- (異議なし)

③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶え、子育てを楽しめる環境をつくる
 <修正点>

行数	修正前	修正後
6行目	雇用機会の拡大が求められている	「仕事と子育てを両立できる環境づくりが求められている」

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 意見の中に、「雇用機会の拡大が求められている」とあるが、それが施策にどう結びついているのかが見えない。もう少し、何をするのか打ち出すべきではないか。
- ◎ 雇用の拡大は、基本目標3に記載する内容か。
- 雇用の拡大ではなく、雇用機会の拡大である。子供を預けることができれば、外で働くことができるという意味合いである。
- ◎ つまり、仕事と子育てを両立できるような環境づくり、ということか。
- その表現のほうの方が分かりやすい。
- ワーク・ライフ・バランスの推進に向けて、実際、どのような取り組みが行われているのか。
- ◎ 役場内での目標が掲げられているが、それを民間にどれだけ拡大できているか。
- 実際には、我々は啓発しかできない。そのため、男女共同参画プランの策定や改訂にあたっては、商工会等にもご参画いただいている。
- 商工会では、どのような取り組みが行われたのか。
- そこまでは確認できていない。
- ◎ 公共事業等で民間事業者が参入していると思うが、たとえば、その事業者の職場では過度な残業をさせないというようなことはできないのか。メーカーは部品を納入するサプライヤーの労働条件に対し、かなり神経質になっている。同じようにチェックすることはできないのか。
- 世の中の動きとしては、入札等でワーク・ライフ・バランスを推進する事業者に加点するであるとか、入札の条件にするといったことに取り組むという話はある。一方で、それを役場でどこまでチェックできるかという、現実的には疑問である。
- ◎ コンプライアンスの問題である。大きな自治体では、かなり気を使っているのではないか。
- 入札の条件でそこまで確認することはなかなかできない。
- 町内には長時間労働させる事業者はないと思うが、ベッドタウンとして、長時間労働で苦しむ人を把握して、サポートするようなことはできないか。少し踏み込みすぎではあると思うが。
- 最近、保育園の無償化という国の施策が話題になっているが、国の施策が動こうとしているときこそ、密接な連携を取り、いち早く動き出すべきではないか。現在はどのような状況になっているのか。
- 現在の町の保育園の状況としては、待機児童が発生しているものの、10名以下と少ない。保育園をこれ以上建てると、収支バランスの悪化し、経営を圧迫することが想定されることから、動きが止まっている。実際には、待機児童がいるから転出する人数より、待機児童が少ないから転入する人

数のほうが多い。

- 待機児童がきわめて少なく、受け入れることができることが、この町の魅力の一つである。定住促進に向け、もっとそういう強みを発信していけばいいのではないか。
- ◎ 評価は「1」でよろしいか。
(異議なし)

④ 二宮町で安心して働き、仕事を生み出しやすい環境をつくる

<修正点>

行数	修正前	修正内容
—	—	区域施策編の早期策定について独立的に追加。

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

- 施策「町の環境を活かした再生可能エネルギーの地産地消等の可能性検討」に、エネルギーの地産地消とあるが、おそらく、地産の良いアイデアがない。町の施策として、再生可能エネルギーを町の中で生産することは非現実的になってきている。しかし、地球温暖化対策は住宅地として非常に大きな条件となり、町の魅力にもなる。そこで、エネルギーの地産地消という観点で考えるのではなく、トータルで二酸化炭素を排出しないための施策を重点的に実施すべきではないか。地域をもう少し広い範囲で考えれば、いろいろできることがあるはずだ。
- エネルギーの地産地消については、前回も申し上げたが、町として、二宮町地球温暖化対策実行計画の事務事業編は策定したが、外部の検討委員会で、区域施策編の策定については地域住民へのPRからスタートしていきましよう、との検討結果となったことから、それを町の方針として取り組んでいる。また、町の直接的な取り組みではないが、有志の町民の方々が「二宮電力」として、主に太陽光パネルだと思うが、エネルギーの地産地消に取り組んでいる。それを今後どのように支援していくかは、これから検討していきたい。
- 町民の温暖化対策への意識づけとは、どういう意味か。町民に温暖化対策の意識がないと読み取れるが、そのようなことはない。そうではなく、具体的な施策が思いつかなかっただけではないか。二宮町で太陽光パネルを並べることは現実的ではない。それに代わる別の方法を考えるのは、検討委員会や行政の取り組むべきことである。それを住民の意識づけに話にすることは、いかがなものか。
- 検討委員会での検討結果が、町民に対する温暖化対策の意識づけを行う基盤づくりを優先的に行うべきというものであり、それを踏まえ、町とし

て取り組んでいくものである。意識の高い方は当然たくさんいると思うが、全町民に浸透していると言われると、まだ取り組むべきことがあるのではないかということである。

- 町民の意識が高まることで、行政への圧力も高まる。潜在的に誰もが意識を持っているはずであり、あえて、町の施策として取り組むことにより、どのようなメリットがあるのか。再生可能エネルギーを推進するための町の基盤づくりとは、どのような基盤なのか。
- 町の基盤というより、皆が意識を高く持てるようにしていくことが基盤づくりである。まずはそこから始めるということである。
- 町として、オリーブを二宮ブランドに位置付けることはできないのか。町は何をもって、二宮ブランドとしていくのか。その点について、意見の中で触れることはできないか。
- 前回の委員会で、オリーブは町の魅力にはなるが、特産品としては否定的な意見であったので、意見として取り上げることはしていない。
- 復活させようということはないのか。低迷させたままか。
- ◎ 前回の委員会で、オリーブは二宮町だけでなく、広域で取り組んでいることから、二宮ブランドの産品として言えるかという話ではなかったか。
- 商工会では、二宮町だけでなく、小田原市等、近隣市町を交えて、積極的に取り組んでいる。オリーブオイルは生産性が低いので、広域的に取り組まないと現実的には上手くいかないことから、商工会では、健康にも良いといわれるオリーブ茶を試験的に販売している。
- すでにオリーブ栽培に取り組んでいる農家の支援は継続するが、二宮町だけで、オリーブを二宮ブランドとして商品化していくことは、面積的な部分も含めて厳しい。
- 「二宮町の就業者割合」の就業者とは、町外で働く人も含めた町民の割合ということではよろしいか。併せて、「二宮町における従業者数」の従業者とは、町内で仕事をしている人ということではよろしいか。
- その通りである。
- 二宮町が今後も住宅地としての価値を向上していくためには、町内での起業や就業に加えて、たとえば、都心へのアクセスの改善等、町外で働く人たちにとって住みやすさを実現する施策があってもいいのではないか。町内で働くと同時に、町外で働く人にも安心して働いてもらうという視点が抜けているのではないか。
- 本委員会の意見として、施策の進め方について意見をいただくことはできるが、新たな施策やプロジェクトの追加についてご意見をいただく場ではない。総合戦略の策定時にも、雇用を増やすことより、ベッドタウンとして、町の魅力を増進すべきという議論があり、それを踏まえて総合戦略を作成している。

- 東海道線を利用して都心に働きに出る人だけでなく、中井町や小田原市の工業団地で働く人にも、この町に来てもらう施策を打つ必要がある。
- それは基本目標1～3で取り組んでいる。
- つまり、基本目標4は、町内に住み、町内で働く人を主眼にした施策ということか。
- その通りである。
- そうだとしても、原因分析が必要である。都心への一極集中の煽りを受け、二宮町の人口が減少しているという印象がある。
- 実際に人口が減少しているのは、学生から就職する世代である18～35歳くらいまでである。逆に、社会移動で人口が増えているのは、18歳以下のお子さんをお持ちの35～40歳くらいの方々である。そういう意味で、子育てしやすい地域を作り、「子どもを連れて二宮町に来てください」というのが大きな流れである。
- 二宮町民の就業者割合が約55%とすると、約1万6,000の町民が働いていることになる。二宮町における従業者数が約5,500人とすれば、残りの1万人以上の町民は町外で働いていることになる。そうであるとすれば、その人たちを転出させないようにすることが大事である。
- 二宮町で1万人もの雇用を創出することはできない。しかし、1万人の町民がもっと職場に近いところに住もうと、転出することのないように基本目標の1～3がある。
- それであれば、基本目標1～3に町外で働いている1万人の町民を減らさないというKPIがあってもいいのではないか。少なくとも、私は基本目標4のターゲットをそのように理解していなかった。
- ◎ 基本目標4の施策に設定されているKPIの目標値を見れば、この総合戦略が1万人の雇用を町内で創出するということを目標としていないことは明らかではないか。
- 評価が「2」で改善する必要があると言いながら、他の基本目標と比べて、意見がすっきりしすぎている。エネルギーについても議論してきたので、その議論の背景を記載しておくべきではないか。
- ◎ KPIの目標値が計画の「策定」と設定されているので、評価が難しい。
- 「策定を急ぐべきだ」はいかがか。
- 区域施策編を策定するという目標に対し、外部の検討委員会の意見を踏まえて、策定を先延ばしている方針となっていることについて、急ぐべきではないか、という意見が前回の委員会でも出た。
- ◎ 前回の委員会で、施策自体を見直すとの説明だったため、再生可能エネルギーに関する何らかの計画を策定すべきという発言が出たのではないか。
- 区域施策編を策定しないと言っているわけではない。ただ、その時期が目標としている31年度より先になる想定なので、町として、施策を見直し

ていきたいという話になっている。それに対して、もっと早く作るべきだ、という意見をいただくことは構わない。

◎ 前後の繋がりがうまくいかないので、「区域施策編の策定を急ぐべきだ」という内容を独立的に入れるということによろしいか。

(異議なし)

◎ 評価は「2」でよろしいか。

(異議なし)

(2) 二宮町総合戦略政策評価に係る意見書(案)について

<修正点>

行数	修正前	修正内容
—	—	各基本目標の意見に入っていた「こうした取り組みを施策の枠を超えて、部局横断的に推進することにより、」を前後の繋がりを踏まえ、違和感のないところに追加。

(主な意見交換等)

※ ◎：会長、○：委員、●：事務局

◎ 先ほどの議論を受けて、「こうした取り組みを施策の枠を超えて、部局横断的に推進することにより、」は、会長意見の違和感のない部分に入れるということによろしいか。

○ 案として、「町民が成熟していく中で、部局をまたがるようなニーズが増加し、これらの課題に適切に対応していくためにも、従来の組織を越えた横断的な取り組みが必要になっている」としては、いかがか。

● 今のご意見を踏まえて、修正案を作成する。

(3) その他

本日の議論を基に、本日の会議録、総合戦略評価に対する意見並びに意見書の修正案をそれぞれ事務局で作成し、11月20日頃までに送付する。それを1週間程度でご確認いただき、そこで出た修正意見等を踏まえ、事務局で再度修正する。最終的なとりまとめについては、会長一任でお願いしたい。(異議なし)今のところ、12月上旬に、会長から町長に意見書を提出していただく予定である。

今年度の委員会は、本日をもって終了する。

平成30年度の第1回委員会は、本年度同様、10月中の開催を予定している。夏頃を目途に、日程調整を行いたい。

【以上】